

平成 27 年 2 月 19 日

「米国における IR・アセスメント事情に係る勉強会」について

大学評価コンソーシアム

1. 開催の主旨

我が国では、近年、教育の成果を測定し、その結果をもとに自律的な改善を行うこと―即ち、**教学マネジメント**―が認証評価等で求められている。学習成果に係る学術的な研究に加え、実践的・実用的な取り組みが大学 IR コンソーシアムなどで行われているものの、一般的なノウハウとして確立されるには至っていない。

一方、米国では、IR オフィスを中心に学習成果の測定やそれらの支援を行っていることが知られている。もちろん、日米の高等教育機関が置かれている立場は異なるが、IR オフィスが現状を把握し、それらのデータや情報を基に、執行部の意思決定や判断の支援を行っていくことが求められている点での相違は無い。

そこで、今回は、米国の IR オフィスでディレクターを務め、かつアセスメント（学習成果把握、分析）の専門家でもある、ウィノナ州立大学（ミネソタ州立大学機構）の藤枝エリ氏をお招きし、単なる「米国における活動事例の報告」ではなく、「米国の IR やアセスメントって具体的に何をやっているのですか？」「日本でも使えるヒントはありますか？」などの素朴な疑問や、参加者の興味、関心をさまざま角度から投げかけ、日本の大学においても応用可能な考え方やテクニック等のお話を直接伺える本勉強会を企画した。

2. 日時・会場

平成 27 年 3 月 9 日（月）17：00～19：00

立命館大学朱雀キャンパス 2 階 209 教室（京都市中京区西ノ京朱雀町 1）

http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_suzaku_j.html

[入館の際の注意事項は文末をご覧ください]

3. 対象

・評価や IR 担当者に加え、教育改善、学習成果の測定や把握に興味のある方（高等教育機関だけでなく、その支援企業等からの参加も歓迎します。）

4. 定員

20 名程度（スタッフを含めますが、申し込み状況によっては若干増員する場合があります。）

5. 参加費

無料

6. 勉強会のスタイル

最初に、藤枝さんに自己紹介と米国での IR・アセスメント事情の概要をお話いただきます。その後、前半は、モデレーターが準備したテーマを中心に、

後半は、質問紙を提出していただき、時間内に全ての質問に対して回答する方向で質疑応答を行います。また、時間に余裕があれば、追加で質問を受けたり、それまでの質疑応答のいくつかを深掘りしたりしながら、総合討論を行う予定です。

ゲストスピーカー：藤枝エリ（社会学博士/ウィノナ州立大学 計画・評価・調査部長）

モデレーター：小湊卓夫（九州大学 基幹教育院）

討論者：浅野 茂（大学評価・学位授与機構 研究開発部）

討論者：大野賢一（鳥取大学 学長室 IR セクション）

討論者：畷田敏行（茨城大学 大学戦略・IR 室）

7. タイムテーブル

17:00-17:05 趣旨説明

17:05-17:15 ミニ講義：自己紹介、米国の IR・アセスメント事情の概要

17:15-18:10 質疑応答 1：以下のテーマを想定

1. 学生の学習成果の測定は、米国でどの程度重視されているのか。
2. 学生の学習成果に関して、直接評価の評価指標、間接評価の評価指標等のさまざまな指標を具体的にどのように設定し、どのように組み合わせる結果を測定したり、分析したりしているのか。
3. 上記2の結果を、組織単位の改善に、どのように結び付けられているのか。

18:10-18:15 質問票記入

18:15-18:55 質疑応答 2：参加者の質問に対する回答

18:55-19:00 まとめ及びアンケート記入

8. スタッフ

浅野茂 (NIAD-UE)、小湊卓夫 (九州大)、畷田敏行 (茨城大)、大野賢一 (鳥取大)、藤原将人 (立命館大) ほか

9. 成果物の公表

原則的に質疑応答などのやりとりは本人に確認の上、公開させていただきますのでご協力よろしく申し上げます。(公表がふさわしくない部分は削除可能です。)

10. 申し込み方法

大学評価コンソーシアムの web サイトからお申し込みください。

2月23日（月）13：00からとなります。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php>

※定員の関係上、同一機関から複数の方にお申し込みいただく場合、2日後の25日（水）13時以降からお願いします。（開催校の方をのぞく）

1 1. 問い合わせ先

茨城大学 大学戦略・IR室 助教 畠田 敏行

shimadat@mx.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8572

立命館大学 教学部 学事課 課長補佐 藤原 将人

masato10@st.ritsumeit.ac.jp

電話：075-813-8170

○ この勉強会の開催にあたり立命館大学様には、会場のご提供などお世話になります。

○ また、調査に関しては、以下の資金も利用しました。

- ・平成25年度科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）））

「教学マネジメントにおける大学の有効性の研究」

（課題番号：25381083、研究代表者：小湊卓夫）



- ・平成25年度科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金（挑戦的萌芽研究））

「日本の大学経営におけるデータに裏付けされた意思決定支援の適応可能性に関する研究」

（課題番号：25590223、研究代表者：浅野茂）

[入館の際の注意事項]

立命館大学朱雀キャンパスは、施設管理上、学生や教職員のもつカードキーがないと内部に入れません。また、会場（2階209教室）までの経路が複雑なため、勉強会当日は1階正面玄関（千本通り側）から案内誘導を行います。誘導標示と案内人の誘導にしたがって会場までお越しください。

16時半過ぎから案内を開始しますので、早めにご到着された場合は、1階玄関を入ったところのメモリアルホールの展示物などをご覧いただいたり、その奥の生協のカフェなどで過ごしながらいお待ちください（これらに入るのにカードキーは不要です）。

スタッフ用資料

17:00-17:05 趣旨説明

17:05-17:15 ミニ講義

・ゲストスピーカーの自己紹介と米国の IR、アセスメント事情の概要についてご報告いただきます。

17:15-18:10 質疑応答 1

・モデレーターが司会役となり、藤枝さんと討論者との議論を進めます。テーマとしては、以下のようなものと想定しています（調整中のため、当日、変更の可能性あり）。

1. 学生の学習成果の測定は、米国でどの程度重視されているのか。
→全体的な動向、各大学の活動、必要な知識・技能の実態との関係も含めて。
2. 学生の学習成果に関して、直接評価の評価指標、間接評価の評価指標などさまざまな指標を具体的にどのように設定し、どのように組み合わせて結果を測定したり分析しているのか。
3. 上記 2 の結果を、組織単位での改善に、どのように結び付けられているのか。
 - ・ IR オフィスとアセスメントオフィスを合わせることによる影響（日常的な調査統計業務や州政府などへの報告業務とアセスメントとの関係→まったく関係ない？関係がある？）、
 - ・ 学長などの大学執行部の関心（教育制度の改革？）と学部・学科等の現場の関心（カリキュラムや授業の改善？）の異同、
 - ・ 学生支援部署との関係（学生支援部署はどのような観点からデータを受けとって学生支援を行う？）などの観点から。

・ 討論者以外の方からの質問も歓迎します。

18:10-18:15 質問票記入

- ・ 流れによっては挙手しづらい場合もありますので、いつものように質問票を用意します。
- ・ 匿名でもかまいませんので、こちらにご質問やコメントをご記入ください。

18:15-18:55 質疑応答 2

- ・ 原則的にいただいたすべての質問に回答します。
- ・ 時間が余れば、総合討論を行います。

18:55-19:00 アンケート記入

- ・ 会場は立命館大学朱雀キャンパス 2 階 209 教室
(40 名定員、有線マイク、ディスプレイ、プロジェクター、スクリーン備付)
- ・ ドアオープンは、16:30 を予定。原則自由席。
- ・ 前の方にディスカッションゾーンを設置。
- ・ 当日のスタッフ打ち合わせは、15 時までには開始したい。
- ・ 藤枝さんには、16 時ごろまでにお越しいただく感じか。
- ・ オートロックの開け閉め要員等が必要なので、藤原君に依頼をしてもらう。
- ・ IC レコーダーは合計三台程度。カメラは誰か調達してください。